

# 動労水戸

国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029-227-6020

FAX 029-227-6291

# K544の交番検査絶対反対!

## 作業指示拒否のストで命と安全を守ろう

JR水戸支社は、職場の労働者の不安と反対の声を無視し、差し当たり業務上の必要性もない被曝車両K544の運用を強行しようとしています。私たちは特に放射性物質のホコリを吸い込むことによる内部被曝の危険性について警鐘を鳴らしてきました。しかし、会社は「資産の有効活用」が優先で「放射性物質はあるが線量に問題なし」と線量の高いメイントランスの冷却装置を交換し交番検査を強行しようとしています。動労水戸は組合員と仲間、そして利用者の安全を守るために「K544に関する作業指示が組合員に出された場合勝田車両センターの全組合員がストライキに入る」という通告を行い、作業指示が行われる3月26日13時からのストライキを貫徹しました。私たちの追及によって行われた屋根上の線量測定では、1年半以上野ざらしだった集電舟から、広野の平均線量と同じ0.2μSv(マイクロシーベルト)という値が計測されました。2年経っても線量は変わっていないという事実が突きつけられているにも

かかわらず、会社は交番検査を強行する構えです。私たちの主張は単に不安をおおっているだけなのでしょうか？

### 命を脅かす危険な放射線の最低基準・年間1mSv

放射線は命をつないでいく遺伝子を破壊します。その凄まじさは原爆やビキニ核実験だけではありません。99年の東海村JCO臨界事故で犠牲になった2人の労働者は、細胞の再生能力が失われ皮膚も内臓も血液も再生できなくなり、輸血された血を体中から吹き出して亡くなりました。放射線はその線量に関わらず生命を脅かします。放射線にはこれで安全という「閾値(しきいち)」はありません。自然界の放射線も有害であり可能な限り避けなければならぬのです。しかし、核兵器の拡散と核戦争の危機に対して全世界で反対運動が高まると、「核の平和利用」の名の下に国際的に被曝基準が定められてきました。それ自体「人間と放射線の共存」を強いるものですが、その基準が「年

間1mSv(1ミリシーベルト)1000マイクロシーベルト」という数値です。この数値は、国と企業が守るべき最低の約束としてあります。年間1mSvを超える被曝がある場所は「準放射線管理区域」とされ、放射線技師などが働く年間5mSvを超える被曝がある場所を「放射線管理区域」と定めて厳格に運用されてきたのです。被曝時間を一日4時間と仮定した一般的な計算では、毎時0.21mSvの場所は年間被曝量が1mSvを超えるため当然にも「準放射線管理区域」になります。これがK544の基本的数値です。また、水郡線安積永盛駅では毎時0.6mSvが計測されています。これは年間では5mSvを超えるので、従来なら「放射線管理区域」になります。これはチエルノブイリでは避難区域の線量であり、27年経っても深刻な健康被害が出ている場所と同じ線量になります。

ところが2年前の原発事故以後、厳格に守られてきた年間1mSvという基準が勝手に変えられています。「100mSvまで大丈夫」と原発労働者の基準が勝手に緩和され、福島の子供たちにも「20mSvまで大丈夫」などとの根拠もなく基準が緩和されているのです。年間20mSvとはレントゲン検査400回に匹敵する恐るべき被曝量です。また、原発事故で放出された主な放射性物質であるセシウム137は、致死量では青酸カリの1000倍以上強い毒物であり、体内に入ると筋肉に吸着し様々な健康被害をもたらすのです。内部被曝の場合、体内に入った放射性物質が細胞に直接ダメージを与えるため、外部被曝に比べその健康被害はより深刻なのです。

**内部被曝問題 組合学習会**

4月14日(日) 13:00

水戸市三の丸市民センター  
2階研修室

講師：柳沢裕子医師  
(船橋二和病院)

会社は普段から「電気は目に見えないから、電圧の大小に関係なく、感電には注意するよう」と言っていますが、電気と同じく目に見えない放射能の対策はどうなのでしょう。会社は、K544について放射性物質があることは認めながら、労働者と利用者の安全を守る責任は会社にあります。車両センターでは、毎朝の点呼で安全綱領等を唱和させています。ところが今回のK544問題は、会社が労働者の命や利用者の安全に関わる重大な問題について「営利優先」で「安全無視」をしているということに他なりません。茨城県内の最も空間線量の高い守谷でさえ0.14μSvです。K544の3号車座席の0.23μSvをはじめ、明らかに警戒すべき数値であり、床下機器のホコリを労働者に吸わせるなど論外ではないのでしょうか。会社の言う「安全」や「フェイル・セーフ」が本当ならば、K544の交番検査も運用も絶対にすべきではないはずです。私たちの主張は間違っているのでしょうか？